

川島町

～特定健診受診率向上対策事業～

(1) 川島町の概要

(ア) 川島町の基本情報

川島町は、埼玉県のほぼ中央に位置し、北は市野川を境として東松山市・吉見町に、東は、荒川を境として北本市・桶川市・上尾市に、南は入間川を境として川越市に、西は越辺川を境に坂戸市に接しており、まさに『川に囲まれた島』そのものといえる。標高は平均14.5mで高低差はほとんどなく、かつては見渡す限り水田地帯であった。

昭和29年に川島領と呼ばれる6か村が合併し川島村が誕生し、昭和47年11月に町制が施行され、今年で40周年を迎える。

現在は、首都圏中央道自動車道川島インターチェンジの開通に伴いインター周辺の開発が進み、町は変革のときを迎えている。

しかし、ここ10年間人口が減少し続けており、まちの活性化において深刻な問題となっている。そのような状況を打開するため、第5次総合振興計画で「転出の食い止め」「転入の促進」「快適生活空間の創出」の視点からリーディングプロジェクトを創設し、全庁をあげての取組みがスタートしている。

①	面積	41.72 km ²
②	人口	22,071 人
③	②のうち65歳以上人口(再掲) ※【 】内は高齢化率	4,964 人 【 22.5% 】

(平成24年1月1日現在。町(丁)字別人口調査)

(イ) 人口分布概要と見込み

川島町では、少子高齢化が進み、年々高齢者割合が増加している。平成37年には前期高齢者と後期高齢者の人口数が逆転し、後期高齢者比率は21.1%となる見込みである。

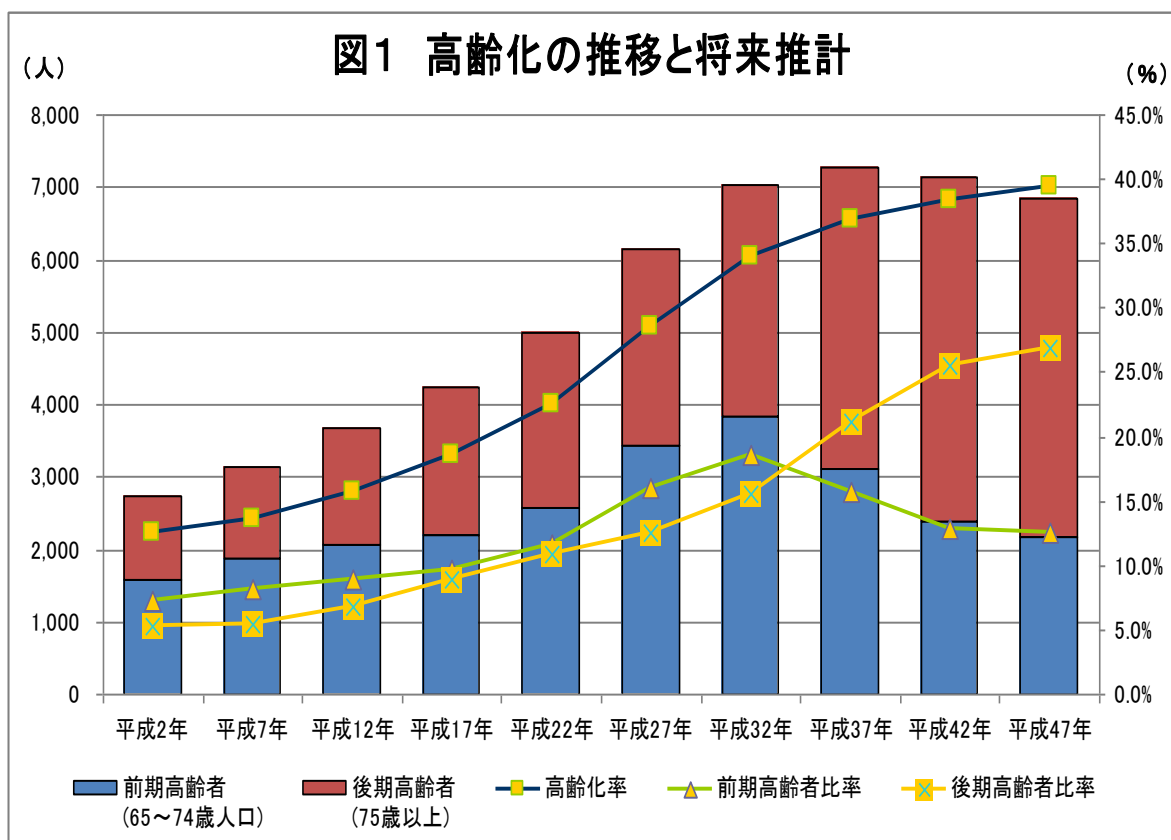
表1 高齢化の推移と将来推計人口

(人)

年	国勢調査人口					将来推計人口				
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
総人口	21,877	23,134	23,322	22,906	22,147	21,535	20,687	19,735	18,653	17,398
前期高齢者 (65～74歳人口)	1,577	1,884	2,079	2,199	2,585	3,446	3,831	3,101	2,388	2,174
後期高齢者 (75歳以上)	1,151	1,262	1,594	2,039	2,403	2,707	3,213	4,165	4,755	4,674
高齢化率	12.5%	13.6%	15.7%	18.5%	22.5%	28.6%	34.1%	36.8%	38.3%	39.4%
前期高齢者比率	7.2%	8.1%	8.9%	9.6%	11.7%	16.0%	18.5%	15.7%	12.8%	12.5%
後期高齢者比率	5.3%	5.5%	6.8%	8.9%	10.9%	12.6%	15.5%	21.1%	25.5%	26.9%

平成22年までは、国勢調査人口

平成27年以降は、『日本の市区町村別将来推計人口』(平成20年12月推計)(H17国勢調査から推計)



(2) 川島町の取組み

(ア) 取組みの概要

当町の特定健診の受診率は、年々向上し平成22年度においては、37.3%であったが、国が示す目標値65%には到底届かない状況である。平成24年度においては、受診率をさらに高め、多くの町民の健康管理、疾病の早期発見早期治療、さらに医療費の適正化に寄与するため、保健部門の地区組織である保健委員に協力をいただき、町民への特定健診受診の啓発普及を行っている。

実施においては、国保担当課町民生活課と協働で実施している。

(イ) 取組みの契機

従来のちらしや広報による周知では、受診率向上に限界があり、地域への積極的なアプローチが求められてきていた。昨年度、モデル地区を決め9地区において区長の協力をいただき、班長会議やゴミゼロ実施日等町民の方々が参集するときに、特定健診の説明と受診勧奨を実施し、直接町民の方々へ説明させていただくことに、受診における理解の浸透に手ごたえを感じ、説明会後の受診者も増加した。

今年度については、保健の地区組織である「保健委員」に協力をいただいて、地区ごとの説明会を計画し、現在PR活動を実施しているところである。

(ウ) 取組みの内容

- ①事業名 特定健診受診率向上事業

②事業目標

- 保健委員（77人）が、町の健康動向及び医療費状況を正しく理解し、自ら受診行動がとれるようになる。
- 地域ごとに啓発活動を行うことで、町民が特定健診を身近に感じてもらい、受診意識を高める。
- 上記2点の結果、受診率がアップする。

②予算

○保健委員活動費

1回活動あたり報償金 2,600円（国保特別会計予算計上）

保健委員77人 × 活動回数3回 × 2,600円 = 600,600円

○啓発用ポケットティッシュ作成 6,000個作成 32,886円

③実施内容

内容	回数	参加者数	従事職員数
保健委員全体会議	1回	72名	保健部門
地区毎事業説明会 当該事業の詳細について、地区毎の保健委員に説明し、今後の計画を検討してもらった。	6回	63名	各会場毎に保健担当1名、国保担当1名が担当
計画内容 戸別訪問による啓発活動 1地区 戸別訪問と防災訓練時PR活動 1地区 地区イベント時PR活動 4地区	10回	92名 (予定)	同上
出前健康講座 6地区毎に「生活習慣病と特定健診」の出前健康講座を実施	6回	126名	保健担当1名

(エ) 取組みの効果

年度途中であることから、効果評価は難しいところであるが、7月に実施した集団方式による特定健診においては、受診者数が106人増加（昨年度比12%増）した。

また、保健委員に直接特定健診の意義、町の疾病状況、地区別字別の受診率、受診方法などの説明をさせていただくことで、協力的に参加をしていただいた。さらに職員と保健委員とのコミュニケーションの場が増え、意志疎通が円滑になったように感じる。

(オ) 創意工夫した点

地区での説明会は出前講座を実施するにあたり、地区の実情を考慮し、日にちや時間の設定は、出来る限り保健委員の提案に基づくものとした。そのため、従来の『参加しなければならない』との意識から『協力しよう』の姿勢に変化したように感じた。ただし、午後7時以降の会議や土日の教室が多くなり、職員への負担が増した。

(カ) 今後の課題

今年度初めて取組んだ事業であり、また実施途中であるため、効果や事業評価はできないが、地区組織に協力をいただき、地域に出向いての活動は、地域の和や協働事業を効果的にすすめるために有効であると感じた。

今後も受診率の向上や医療費の適正化のため、地域に出向いての活動の実施を検討していきたい。